Close Up クローズアップ　交通教育センター

熊本県立矢部高等学校 二輪車競技部の生徒を対象に特別講習を実施

熊本県立矢部高等学校（熊本県山都町・以下、矢部高校）には部活動の一つに二輪車競技部がある。生徒の約4割が原付で通学している同校ならではの部だ。1996年の創部から長年にわたる交通安全活動が評価され、（公財）国際交通安全学会（P5参照）の創立50周年記念特別表彰を受賞。その副賞として贈呈された交通教育センターレインボー熊本（以下、レインボー熊本）での特別講習が昨年11月17日に行われた。

二輪車競技部の生徒たちはレインボー熊本の広いコースで日頃できない課題に取り組んだ

二輪車競技部では部員の生徒がOBの指導員（監督）のもと、バイクの安全運転技術を向上させるための練習に励んでいる。
同部の活動内容について、顧問を務める矢部高校 教諭 米村龍一さんは「当校は『乗せて指導』を方針としています。2年生に進級したら希望者には原付免許の取得を許可しています。毎年、春休みには新たな原付免許取得者を対象とした実技講習を行っており、さらに各学期１回ずつ講習（実技または講義）を実施しています。これらの講習で指導的役割を担っているのが二輪車競技部です。自らの運転技術を磨くとともに、周囲にも安全運転の意識と技術を広める活動をしています。また、部員には自動二輪免許の取得も許可しており、現在3名が普通自動二輪免許を持っています」と説明する。
今回の特別講習には二輪車競技部の生徒11名が参加。午前中はブレーキングやパイロンスラロームといった課題に取り組んだ。
ブレーキングは直線コースを30～40km/hで走行し、前輪のみ、後輪のみ、前後輪で急制動を行う。前輪・後輪ブレーキの特性と、それぞれで停止距離の違いを生徒たちは確認した。
パイロンスラロームでは、直線上に5m間隔で配置されたパイロンを左右に避けながら通過する練習を繰り返し、効果的なアクセルとブレーキの操作を身につけた。途中でインストラクターは生徒たちを集め、「パイロンの裏側を通る走行ラインを意識すると、よりスムーズに走れるようになります。練習の中では、ステップの足の位置を変えてみて、どのように走りが変化するか確かめてみましょう」とアドバイスした。
昼食をはさんで午後は競技会となった。パイロンスラロームと一本橋の2種目で部員同士が競う。1～3位の生徒にはインストラクターから記念のトロフィーが授与された。
最後にインストラクターが「運転技術が上がると、ついついスピードを出したくなります。今日のような講習では問題ありませんが、公道では皆さん以外の交通参加者もいるので、そうならないように気をつけてください。スピードを上げれば、その分リスクが高まることを理解してほしいと思います」と締めくくり、特別講習は終了となった。
米村さんは「プロのインストラクターによる指導は生徒たちの良い刺激になりました。バイクを安全に扱うためには、ブレーキングなど基本的な運転操作が重要であることを再確認できたと思います」と話す。
二輪車競技部に入部するため、地元の大分県を離れて矢部高校に進学したという部長の五所愛華さん（2年生）は「日頃、私たちが練習している場所ではスペースの関係で練習内容に制約があります。今日は広いコースで普段できない練習が思う存分できました。インストラクターの方のアドバイスで足の位置を意識したら、パイロンスラロームがスムーズに走れるようになりました。ここで学んだことを活かして、今後も安全運転技術を高めていきたいと思います」と特別講習の感想を語った。

直線コースを30～40km/hで走行し、急制動を行うブレーキング

パイロンスラロームでは車体を安全にコントロールするための技術を高める

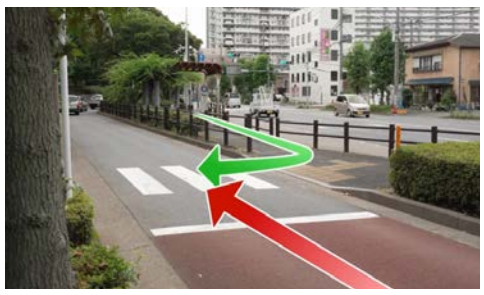
インストラクターが練習の様子を見ながら生徒一人ひとりにアドバイス

競技会では一人ひとりのパイロンスラロームや一本橋（写真）のタイムを計測

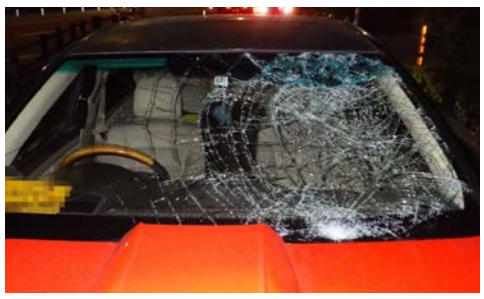
Safety Info. インフォメーション

警視庁・交通安全啓発映像「ヘルメットに救われた命」生きているから伝えられるメッセージ

警視庁が自転車の交通安全啓発映像「ヘルメットに救われた命」を制作し、昨年11月13日に同庁で完成披露式が行われた。
この啓発映像は、2023年7月に東京都内で自転車乗用中に交通事故の被害者となったAさんが、ヘルメットを着用していたことで命が救われた実体験をもとにしたもの。事故の再現映像やAさんへのインタビューを通じて、万が一の時にヘルメットが命を守ってくれることを自転車利用者に訴えかける内容となっている。
Aさんは自転車で信号機のない横断歩道を渡っていた時に直進してきたクルマと衝突。頭部をクルマのフロントガラスに強打した後、身体は15m先に飛ばされた。頸椎や左足を骨折するなど全治3ヵ月の重傷を負ったが、頭部はヘルメットを着用していたため、脳震とうだけで済んだのである。映像の中で、Aさんはヘルメットを着用するようになったきっかけを母親からの再三にわたる呼びかけだったと語っている。最初は受け流していたが、何度もいわれるうちに着用する気持ちになったそうだ。
完成披露式の後、警視庁から感謝状を贈呈されたAさんは「走ってきたクルマのフロントガラスに頭を強くぶつけて空中に飛ばされた瞬間、『これで私は死んじゃうのかな』という気持ちがよぎったことを今でも記憶しています。ヘルメットをかぶっていなかったら、このように皆さんにヘルメットの大切さをお伝えすることはできませんでした。ヘルメットは自分自身の安全と家族の安心につながります。この映像をご覧になった方がヘルメットをかぶり、また、その方が家族や周囲の友人にこの話をしてヘルメットをかぶるきっかけになればとてもうれしく思います」と話す。
警視庁は、啓発映像のDVDを管内の警察署や運転免許試験場をはじめ、東京都ほか各区市町村、自転車関連団体・企業等に配付し、自転車利用者への交通安全教育に役立ててもらうという。また、啓発映像は警視庁公式YouTubeチャンネルで閲覧することができる。


事故が起きた場所は信号機のない横断歩道

クルマと衝突した時の状況を再現


Aさんは頭部をクルマのフロントガラスに強打

Aさんが実際に着用していたヘルメット

啓発映像ではAさん自ら事故に遭った時の状況を説明

警視庁公式YouTubeチャンネル
交通安全啓発映像
「ヘルメットに救われた命」
https://www.youtube.com/watch?v=Mka6qJYiNiA

Aさんには警視庁から感謝状を贈呈された